



# 福岡市政だより

令和4(2022)年

# 6/15

No.1710



## 暮らしを守る検査室 福岡市保健環境研究所

中央の写真は市保健環境研究所(中央区地行浜二丁目)外観。その他は、研究所内の様子や検査機器など

### 市長からのメッセージ

### 安全な暮らしを支えています

福岡市保健環境研究所は、「食の安全」や「感染症」、「環境」に関するさまざまな検査・研究を行っています。

流通する食品に基準を超える農薬は残っていないか、添加物の使い方は正しいかなど、食品の安全性をチェックし、食中毒が発生した際には、原因究明のための検査も行います。新型コロナウイルス感染症が発生してからは、保健所と連携してPCR検査や変異株検査にも迅速に対応し、感染症の拡大防止に努めてきました。また、きれいな水と空気を守るための長期的な環境調査も行っています。

福岡市長 高島宗一郎



### 今号の主な内容

- <特集>暮らしを守る検査室 ..... 1-3
  - 特別給付金(子育て世帯/住民税非課税世帯等) ..... 4
  - 咀嚼(そしゃく)力向上プロジェクト ..... 5
  - 参議院議員通常選挙 投票に行こう ..... 6
  - 国民健康保険からのお知らせ ..... 7
  - 情報BOX ..... 8-14
  - 区版 ..... 15-16
- ※中面折り込み ..... 市議会だより

人口 <b>1,623,918人</b> (前月比4,025人増)	面積 <b>343.46km<sup>2</sup></b>
男=765,443人/女=858,475人	ダムの貯水率 <b>66.97%</b> (6月1日現在)
世帯数 <b>850,044世帯</b> (前月比4,705世帯増)	
※人口と世帯数は令和4年5月1日現在推計	

- 市役所代表電話 ..... ☎711-4111 (市外局番は092)
- 市政に関するご意見・要望・相談 ..... 広聴課 ☎711-4067 733-5580
- 福岡市政だよりの配布 ..... 毎日メディアサービス ☎0120-359-303



# 暮らしを守る検査室

## 福岡市保健環境研究所

市保健環境研究所(以下、保環研)は、市民の健康と快適な暮らしを守るために、保健衛生や環境に関するさまざまな検査・研究を行っています。「保健科学課」と「環境科学課」の2部門で生活の安全が守られています。

### 保健 感染症と食の安全

保健科学課は、「感染症」と「食の安全」の二つの分野を担当しています。感染症の拡大防止や原因究明のための検査・研究、食品に関する理化学検査、食中毒の原因となる微生物の検査・研究など、暮らしに関わるさまざまな検査を行っています。



腸管出血性大腸菌の分離培養



血液中の梅毒抗体検査

### ●体と健康

食中毒や、麻しん、腸管出血性大腸菌O157などの感染症が発生すると、各区保健所や医療機関などで採取された検体が持ち込まれ、原因となるウイルスや細菌の検査を行います。また、市民からの依頼に応じて、梅毒などの性感染症の検査も行っています。

新型コロナウイルスのPCR検査も実施しており、検査開始当初は市内唯一の検査機関として重要な役割を担っていました。現在はクラスター(感染者集団)発生などに伴う緊急の検査や、オミクロン株などの変異株の検査に対応しています。

### ●暮らしの衛生

井戸やプール、公衆浴場の水



PCRは目的の遺伝子だけを簡単に100万倍ほどに増やせる手法で、だ液などから遺伝子を抽出し(上写真)PCR検査装置(下写真)にかける



食品中の農薬や添加物の測定

### ●食の安全

飲食店で提供される貸しおしりにも、細かく衛生基準が設けられています。おしりから大腸菌や黄色ブドウ球菌などの病原菌が検出されないかを確認します。

食品の製造が衛生的に行われ、食中毒の原因となる細菌は付いていないか、加工食品に使われている食品添加物のルールは守られているか、直売所の野菜に使用されている農薬は基準に適合しているかなどをチェックしています。

### 食品衛生分野で論文賞を受賞

食品化学担当の研究員(戸渡寛法、宮崎悦子、赤木浩一)が、「魚に含まれる有機ヒ素化合物の新規分析法の開発」について国立医薬品食品衛生研究所と共同研究を行い、そこで得られた知見を論文にまとめ、令和2年に食品衛生分野の学術誌に発表しました。その論文が、食品衛生学会論文賞を受賞しました。

受賞者の一人である宮崎主任研究員(46)は「戸渡研究員(現在は環境保全課)を中心に行った地道な研究が実を結びました。将来、この研究成果が市民の食の安全につながることを期待しています」と話しています。



宮崎主任研究員



ホウレン草の農薬検査

さらに、遺伝子組み換え食品やアレルギー物質が正しく表示されているかについても、検査して確認しています。

さまざまな検査を通じて食の安全確保に努め、食品による事故を未然に防ぎます。

保健科学課の佐藤秀樹主任研究員(44)は、「保環研には25歳から40歳までの若手研究員が活躍しています。検査用の食品の抜き取りや、何か問題が起きたときに施設への衛生指導を行う各区保健所と緊密に連携を取りながら、市民の健康と快適な暮らしを支えています。」



微量分析担当の佐藤主任研究員

装置を備えています。市内で食中毒などが発生した際には、原因究明のための検査も行います。地道な作業ですが、見逃しがりやです。安全管理を徹底し、気を引き締めて業務に当たります」と話していました。

### 専門知識と技術で健康をサポート

保環研職員は、常に新しい情報を取り入れ、災害や感染症などの緊急時にも対応できるように、日頃から検査技術を磨いています。検査用の食品の抜き取りや、何か問題が起きたときに施設への衛生指導を行う各区保健所と緊密に連携を取りながら、市民の健康と快適な暮らしを支えています。

問い合わせ先/市保健環境研究所(中央区地行浜二丁目)

726 831-0660 831-0726



市政だよりの事業所配布

市政だよりは、配布を希望する市内事業所にもお届けしています。申し込みは毎日メディアサービス(☎0120-359-303)へ。圖広報課 ☎711-4016 732-1358



環境 海・河川・大気・大気

環境科学課は、水や大気などの「環境」分野を担当しています。

●きれいな水

博多湾、河川、地下水などの水質検査や、工場・事業所の排水基準に適合しているかを確認する検査のほか、市民からの依頼に応じた井戸水の理化学検査などを行っています。河川などで大量の魚が死んでいたり、色の付いた水や油の流出等が発生したりしたときには、原因究明のための検査を行います。

また、市内を流れる五つの河川(多々良川、御笠川、那珂川、樋井川、室見川)で、水質の指標となる水生生物の調査を行い、



室見川で行った生物調査



顕微鏡による水生生物の確認

長期的な自然環境の変化を調べています。

川の中には、きれいな水でも生きられない生き物と汚れた水でも生きていける生き物が生息し、その生き物たちが水質を教えてくださいます。網を使って川底の昆虫など水生生物を捕獲し、採集した生き物を分類して調査地点ごとに水質を判定します。1階にある保健環境学習室「まもる一む福岡」に、採集した川の生き物たちの標本を展示しています。

●澄んだ空気

大気中のPM2.5や有害な大気汚染物質などの検査を定期的に行っています。また、依頼に



保環研屋上のPM2.5採取装置



水中の微量な化学物質や油の測定



環境分野を担当する大平主任研究員

応じて、悪臭物質やアスベストなどの検査も行うほか、他都市との広域的な共同研究として光化学オキシダントや酸性雨の調査などにも取り組んでいます。黄砂等が飛来しPM2.5が高濃度になった場合には、保環研の屋上でPM2.5の粒子を採取し分析しています。その中に含まれる成分等を分析することで、排ガスなど燃焼によるものか、黄砂や火山の煙など自然によるものかなど原因を推定することができま

環境科学課の大平良一主任研究員(52)は「私たちは身近な水や大気などについて日々調査研究を重ねています。得られた結果は、市の環境保全に関する施策等に生かされています。安心して生活できる豊かな環境を、次の世代につないでいきたいと思っています」と話していました。

保環研は、これからも社会の変化に対応しながら地域に根差した検査・研究を進め、市民の暮らしと安全を守ります。

■問い合わせ先/市保健環境研究所 ☎831-0669 F831-0726 31・0726

環境保全活動を応援します

まもる一む福岡は、環境活動に興味がある人向けに、専門家と自然や生物多様性をテーマに語り合うトークカフェなどの交流イベントを開催するほか、環境活動に関する相談を受け付けています。

また、市内で活動する環境保全団体等を応援するため、研修スペースの貸し出しや団体間の交流会なども行っています。

●アドバイザーがサポート

環境分野で活躍する3人の専門家=写真=が、環境活動に取り組む市民の皆さんからの相談に応じ、アドバイザーとして協力します。

詳しくはホームページでご確認ください。



左から高田浩二氏(海と博物館研究所所長)、志賀壮史氏(グリーンシティ福岡理事)、大神弘太郎氏(ふくおかFUN代表理事)

環境活動ニュース

まもる一む福岡の活動は、「環境活動ニュース」で読むことができます。市内外のNPOの活動紹介、アドバイザーのコラムなど、さまざまな視点から自然や生き物、環境について解説しています。ホームページにも掲載しています。



まもる一む福岡で配布しています

保健環境学習室 ☎831-0669 F831-0726  
開午前10時~午後5時  
休月・火曜日(祝休日の場合は翌平日)

保環研の1階にある保健環境学習室「まもる一む福岡」は、子どもから大人まで、保健や環境について体験しながら学べる施設です。

●体験学習ゾーン

科学実験や生き物の観察を通して学ぶ「ミラクルラボ」や、映像クイズに答えながら学ぶ「ミニシアター・ガイア」、専門家による講座などを行う「多目的スペース」があり、週末には多彩なイベントを開催しています。

●展示学習ゾーン

絶滅危惧種に指定されている魚・ヒナモロコや「生きている化石」カブトガニの展示(夏季のみ)のほか、パネルなどの展示で学習できます。ライブラリーには、環境や生き物、保健関連の書籍900冊とDVD60本があり、無料で借りることもできます。



6月中旬以降にカブトガニを展示します



多目的スペース。親子で参加できるイベントもあります

催し 見て触って博多湾の魚と漁業を学ぼう~おいしい魚と危険な魚~

7月23日(土)午前10時半~正午 小学生以上 30人 無料 6月15日以降に電話かメール(mamoreroom@fch.chuo.fukuoka.jp)で申し込みを。※1申し込みにつき5人まで。

博多湾で取れる魚の種類や量は、どのように変わってきているのでしょうか。漁業者から話を聞きながら、博多湾の環境保全や生物多様性について考えます。



催しは全て無料です。詳細は、ホームページ(「まもる一む」で検索)で確認を(本紙8面に記事)。

危険! ため池・水路・井せきでの水遊び

ため池・水路・井せきでの水遊びは大変危険です。周囲の人が声を掛けるなど、子どもたちの事故防止にご協力ください。農農業施設課 ☎711-4861 F733-5583